

1	会議名	令和5年度 第2回総合教育会議 会議録
2	開催日時	令和6年2月5日(月) 午後10時00分～午前11時30分
3	開催場所	2階 特別会議室
4	出席者	市長：福田 良彦 教育長：守山 敏晴 教育長職務代理者：廣田 登志子 教育委員：村尾 利勝、渡邊 博明、柿木 秀雄
5	欠席者	なし
6	説明のため出席した者	教育次長(科学センター館長)：丸川 浩 学校教育課長：重本 浩志、主幹：田村 幸恵 青少年課長(教育センター所長)：倉本 敦 生涯学習課長(中央公民館長)：岡田 司 中央図書館長：山本 圭子 周東支所長：加藤 勝巳 美和支所長：佐伯 重樹 科学センター次長：宮 文男 教育政策課 英語教育推進室長：村中 俊一郎、施設班長：櫻田 和宏
7	事務局	教育政策課長：村重 武志 政策班長：大黒屋 誠、政策班 村上 葵 政策企画課長：賀屋 和夫
8	協議事項	(1) 令和6年度の主な取組(教育関係施策)について
教育政策課長		・定刻になりましたので、令和5年度第2回岩国市総合教育会議を開催します。なお、本日の会議の終了予定時間は午前11時30分としておりますので、御協力をお願いいたします。
市長		それでは、開催に当たりまして、福田市長に御挨拶をお願いします。 ・皆さん、おはようございます。今回18回目の令和5年度第2回岩国市総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。この会議は、令和6年度の教育行政の主な施策について、各課から説明させていただきます。改めて、1月28日に施行されました市長選挙におきまして、市民の皆様からの信任を得まして、市政を担わせていただくことになりました。引き続きよろしくお願いたします。岩国市は広大な市域を抱えておりまして、各地域、現場の声は大切ですので、教育委員をはじめ、職員の皆様も関係機関や現場に出向く中で、現場の声を吸い上げていただいていると思います。改めて、教育行政においても、現場主義を徹底していただき、施策を進めていただきたいと思います。令和6年度の教育関係施策の主な取組について、各委員から忌

<p>教育政策課長</p>	<p>たんのない御意見をいただきしたいと思います。よろしくお願いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • それでは、議事の進行につきましては、岩国市総合教育会議運営要綱第4条第3項により、市長にお願いいたします。よろしくお願いたします。
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> • それでは、お手元に配布されております資料に沿って、協議を進めてまいりたいと思います。「令和6年度 主な取組（教育関係施策）」について協議を進めますので、順次説明をお願いします。
<p>教育政策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> • それでは、資料に沿って、まず教育政策課から御説明をさせていただきます。お手元の資料を御覧ください。 • 教育政策課からは 1 ページから 3 ページにかけて、主な取組事業を 11 事業ほど掲げております。まず 1 ページの表の上 3 つが、学校のトイレ改修に係る事業となります。この 3 つのトイレ改修事業については、まとめて説明させていただきます。現在、本市では、2 つの事業を組み合わせ、学校施設のトイレ環境の改善に向けた取組を進めています。一つ目が、上 2 つの小・中学校のトイレ改修事業です。この事業は、校舎の老朽化等によって、特に劣化が進んでいる市立の小・中学校のトイレについて、壁、床、トイレブース、換気設備等を更新し、併せて便器についても、和便器から洋便器に変更を行うものです。つまり、トイレ空間を丸ごと更新するという事業です。 <p>そしてもう一つの事業が、表の真ん中のトイレ簡易改修事業です。この事業は、トイレの洋式化の向上を目的に、今ある便器を、和便器から洋便器へ取り換える事業です。このことから、小・中学校のトイレ改修事業については、トイレ簡易改修事業に比べて、事業規模も大きく、また実施に当たっては、その前年度に実施設計業務を行うため、事業は 2 か年にかけて進めていくこととなります。令和 6 年度の事業の内容についてですが、小・中学校のトイレ改修事業につきましては、今年度を実施設計を終える川下小学校及び麻里布小学校と、灘中学校及び平田中学校の改修工事を行い、さらに、令和 7 年度の工事に向けて、2 つの小学校と 2 つの中学校の実施設計を行うこととしています。トイレ簡易改修事業では、小学校の校舎 8 校、体育館 6 校、中学校の校舎 4 校、体育館 4 校、計 22 校において、簡易改修を実施する予定としています。なお、これまでの簡易改修事業では、主に利用頻度の高い校舎側について整備を進めておりましたが、来年度からは、学校施設の多くが災害時の避難場所にもなっていることから、体育館についても洋式化に向けての整備を進めることとしています。それぞれの改修事業の来年度の予算額についてですが、小学校施設トイレ改修事業は、2 億 9,677 万円。また、中学校施設トイレ改修事業については、3 億 7,128 万 8,000 円を、トイレ簡易改修事業については、2,300</p>

万円を予算措置することとしており、これらを合わせると、来年度は、トイレ改修事業として小・中合わせて約6億9,000万円を予算措置することとしております。今年度の予算と比較すると、約2億円の増額予算となっております。なお、財源は、小・中学校のトイレ改修事業については、いずれも文科省の国庫補助金や起債を活用することとしており、また、簡易改修事業の財源については、市費とふるさと納税でいただいた寄附金を充てることとしています。補足となりますが、現在の学校施設のトイレ環境の整備の進捗状況、また、今後の洋式化率の見込みを申し上げますと、今年度当初の洋式化率は38パーセントという状況でしたが、今年度末には、今よりも8パーセント程度上昇し、46パーセントになる見込みです。来年度、今御紹介した事業を予定どおり進めた場合には、洋式化率はさらに10パーセント程度上昇し、56パーセント程度になると見込んでいます。教育委員会の当面の目標としては、令和8年度までには、洋式化率を全国平均である約7割を超えるよう、早急にピッチを上げて整備を進めていきたいと考えております。

- ・次に、表の下にある小・中学校の空調設備整備事業です。まず、本市の小・中学校のエアコンの整備状況についてですが、普通教室については、平成29年度までに市内全ての市立小・中学校の整備を終えており、現在、主に授業で使用する特別教室について整備を進めているところです。ここで掲げる事業は、小・中学校の特別教室に係る空調設備事業となります。来年度は、由西小学校と宇佐川小学校の実施設計と、周東中学校と美和中学校の整備工事を実施する予定としています。この周東中学校、美和中学校の整備を終えれば、特別教室について、中学校の14校全ての整備が完了することになります。今後、小学校につきましても、令和7年度に整備予定の2校を除いた、残り8校の整備につきましても、学校統合の状況や長寿命化計画等との調整を図りながら、必要な整備を進めたいと考えております。予算額については、小学校分として623万円、中学校分として8,351万円を予算措置しています。財源につきましても、いずれも文科省の国庫補助金や起債を活用することとしています。

- ・次のページを御覧ください。上2つは長寿命化計画に基づき、老朽化が進んだ学校施設の改築を行うものになります。灘小学校屋内運動場改築事業は、令和3年度からの継続事業となります。灘小学校の屋内運動場は、建設から70年が経過し、老朽化が進み、雨漏りや床板の劣化など、不具合が多く発生していたことから、令和3年度から事業に着手し、昨年9月から工事に着手しております。今年9月までには工事を終え、その後、現講堂の解体工事を行い、来年度中には事業を完了する予定となっております。本年度の予算額は解体工事も含めて4

億 5,123 万 4,000 円を計上しています。財源につきましては、いずれも文科省の国庫補助金や起債を活用することとしています。次の、美和中学校屋内運動場改築事業は、来年度から着手する新規事業となります。美和中学校の屋内運動場は、建設から 57 年が経過し、また、その立地条件——雨が降ると、すぐそばにある山からの水が流れ込みやすい地形ということで、雨水が床下に流れ込んで床が腐食するなどから劣化が進み、床板の腐食や天井の雨漏りなど不具合が多く、学校運営に支障をきたしていることから、来年度から改築事業に着手する予定としています。整備に当たっては、近隣にトレーニングセンターや武道場などもあることから、現在、それら周辺施設との複合化も視野に入れて検討を進めることとしています。来年度は、整備計画を立てる上で必要な用地測量等の経費として、1,448 万 7,000 円を計上しています。

- ・ 次の、英語交流センター運営事業を含めて、4 つの事業が英語教育に関する事業です。当課では、魅力的な「英語交流のまち」として、若い世代を中心とした幅広い世代に選ばれるまち、活気ある地域の実現を目指して、英語をキーワードとした様々な事業に取り組んでいるところです。まず、英語交流センター運営事業の事業内容については、令和 4 年 3 月に、J R 岩国駅東口駅前 で運用を開始した岩国市英語交流センター、愛称「P L A T A B C」において、英語の学びや学び直しの機会の充実を図り、国際交流活動を促進するため、各種イベントや講座を開催し、令和 5 年度も 12 月末までに 111 件の大小様々なイベントを開催し、約 2,400 人の方々に参加していただいております。また、来館者もオープン以降、1 日当たり延べ平均で約 100 人、5 万人を超える方々に利用していただいております。来年度からは、従来の業務委託から、指定管理者制度を導入するため、より民間のノウハウを生かしやすくなるため、引き続き、外国人と市民とが、自然にコミュニケーションを図れる環境を提供していきたいと考えています。来年度の予算額は、主に指定管理料等として 3,619 万 9,000 円を計上しております。財源は、基金事業として、全額国からの交付金を充てています。

- ・ 次の、英語教育推進事業と国際交流支援員常駐配置事業については、まとめて説明します。英語教育推進事業は、小学校に外国語指導助手、いわゆる A L T を配置する事業で、国際交流支援員常駐配置事業は、地域への語学指導の一環として、市内全ての中学校に、国際交流支援員を常駐配置している事業です。英語教育推進事業の予算額は、4,894 万 6,000 円です。市内の小学校 30 校を 10 グループに分け、10 人の A L T を配置することとしています。この事業の財源は、全額市費となります。下の、国際交流支援員常駐配置事業の予算額は、6,845 万 2,000

円で、市内 14 校全ての中学校に支援員を配置し、生徒への語学指導を行うとともに、地域への語学指導や国際交流教室など、地域での交流活動も行っています。この事業の財源としては、県の交付金を活用しています。次のページの、英語交流のまち I w a k u n i 推進事業については、「基地があるまち」という本市の特性を活かして、基地を地域資源として捉え、積極的に活用し、学校における英語教育の充実に加えて、国際交流事業等を推進することで、グローバルな人材の育成を図ることなどを目的に、P L A T A B C とも連携を図りながら、各種イベントなどを展開することとしています。代表的なイベントを御紹介しますと、市民と基地ボランティアの外国人との交流を図る国際交流カフェや、外国人講師の指導の下で、様々な体験プログラムにより、英語でのコミュニケーション能力などを身に付けるイングリッシュ・キャンプ等のイベントを、令和 5 年度は、P L A T A B C だけでなく、由宇や本郷、周東など各地域においても開催をしています。来年度も、様々なイベントを展開していくことで「英語交流のまち I w a k u n i」を推進していくこととしています。これらの予算として 144 万 7,000 円を計上しています。教育政策課からの説明は以上です。

学校教育課主幹

- ・学校教育課です。7つの事業を挙げております。まず、小中学校学校給食運営事業です。予算額は 6 億 755 万 2,000 円です。平成 30 年度から学校給食運営基金を活用し、市立小・中学校の学校給食費の無償化を実施しています。
- ・次に、小中一貫教育推進事業です。予算額は 287 万 3,000 円です。小中一貫教育を推進するために、担当者協議会の開催や、山口大学より指導者を招へいして研修会を行います。また、小中一貫教育の仕組みを生かして児童生徒の確かな学力を育むことを目的に、2つの中学校区を研究校に指定し、様々な事業を実施します。
- ・次に、小中学校日本語指導支援員配置事業です。予算額は 1,414 万 8,000 円です。日本語が話せない、日常会話程度しかできない軍人・軍属の子供たちに対して、学校への適応を図ることを目的としています。日本語指導支援員は、授業中に当該児童のそばに寄り添って日本語のサポートをしたり、昼休みなどを利用して、個別に日本語の基礎や基本を教えたりする活動をしており、5人の支援員を配置予定としています。財源は、山口県の再編関連特別地域整備事業の基金を活用します。
- ・次に、帰国・外国人児童生徒教育推進支援事業です。これは、令和 5 年度からの事業で、業務内容については、小中学校日本語指導支援員配置事業と同様ですが、本事業は、小・中学校に在籍する外国人子女の児童生徒を対象としています。予算額は 1,439 万 5,000 円で、5人

の支援員を配置予定としています。財源は、帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業を活用し、補助率は、国が3分の1、県が3分の1となっています。

- ・次に、岩国北部地域給食施設整備事業です。岩国北部地域にある小・中学校の給食調理場につきましては、いずれも老朽化していることから、美和西小学校の給食調理場を、共同調理場に改修し、北部地域の各小・中学校に給食を配送するもので、将来にわたり安心・安全な学校給食を安定的に提供するために行うものです。令和6年度に係る事業予算額は、3億1,032万1,000円です。

- ・次に、資料4ページになりますが、小中学校ICT環境整備事業です。予算額は、1,000万円です。デジタル教科書をはじめとしたデジタルコンテンツに対応し、視覚的効果により児童生徒の関心・意欲を高め、主体的・対話的で深い学びにつなげるための環境整備として、おおむね1学級30人以上の学級を対象に、大型提示装置65型を年次的に整備していきます。最後に、部活動改革推進事業です。予算額は、221万3,000円です。部活動の地域移行に向けて、関係団体等と中学生との連絡調整や地域移行に関する協議会の企画や運営を行うコーディネーターを配置し、文化スポーツ環境を構築していきます。学校教育課からは以上です。

青少年課長

- ・青少年課・教育センターです。2つの事業について御説明いたします。
- ・1つ目は、自立学習応援プログラム導入事業です。令和3年度から実施していますが、学校に行けなかった時期の学習内容を学び直すことを目的として、教育支援教室に通室してくる不登校児童生徒を対象に、eラーニング教材「すらら」を活用して学びの充実を図っております。令和5年度で3年間の契約が終了しますので、令和6年度から新たにこの事業を継続し、予算額165万4,000円を計上しております。
- ・2つ目は、新規事業で教育センター空調設備改修事業です。平成14年に開設した教育センターの空調設備が老朽化していることから、同設備を更新するものです。予算額は3,016万3,000円を計上するものです。内訳としましては、2,950万円を地方債、66万3,000円を一般財源から充当するものです。以上です。

生涯学習課長

- ・生涯学習課・中央公民館です。はじめに、「とどける」家庭教育支援事業ですが、こちらは継続事業で、報償費として、298万3,000円を計上しています。この事業は、課題を抱える家庭や孤立しがちな家庭などを対象に、学校と協働して子育てや家庭の課題に関する相談対応や情報提供等を通じて、家庭の自立と課題解決につながる専門機関への橋渡し等を行っており、来年度で6年目を迎えます。現在、小学校31校のうち22校で、支援員57人が活動しています。事業の実施に当たっては、支援員の資質向上を図るため、研修会の開催や支援員同士

の意見交換の場を設け、支援員に対してのケアも継続して行っています。また、切れ目のない子育て支援、家庭教育支援体制の構築を図るため、教育委員会の関係課と福祉部局等の関係機関とが連携して取組を進めています。

- ・次に、教育施設駐車場整備事業についてですが、この事業も継続事業で、本年度に設計業務を行い、来年度に工事請負費として、5,453万2,000円を計上しています。事業内容としては、旧玖珂総合支所と旧玖珂公民館を解体した跡地に駐車場を整備することで、周辺にある玖珂小学校、放課後児童教室、玖珂幼稚園、生涯学習施設の「こどもの館」など、教育施設を使用される方の利便性と安全性の向上を図るものです。また、玖珂本陣と代官所が存在していたこと、玖珂町役場の跡地であることなどを盛り込んだ説明版を備えた東屋風の停留所も併せて設置します。
- ・次に中央公民館整備事業、こちらも継続事業で、来年度の予算額は、9億4,400万円を計上しています。本年度、実施設計と解体工事が完了しております。実施設計の成果として、提出された資料を添付しておりますので、施設の概要や外観のイメージ等はこちらで確認していただければと思います。今後のスケジュールについて、資料の全体計画を御覧ください。ここでは、本体工事の期間が、令和6年4月から令和7年12月までとなっておりますが、予定していた入札が中止となったことから、本年度中の契約ができず、来年度当初に入札を行うこととなったため、着工が3か月遅れて、令和6年7月になり、完成も令和8年3月になる見込みです。今後は、令和7年度末の工事完成に向けて、事業を進めていくこととなりますが、完成後の備品の搬入や事務所移転等の準備期間を少しでも短縮できるように調整していきたいと考えており、令和8年度のできるだけ早い時期の供用開始を目指してまいります。以上です。
- ・中央図書館です。5ページを御覧ください。2つの事業について御説明いたします。
- ・まず、令和5度からの継続事業で中央図書館エレベーター更新事業についてですが、平成6年7月に開館しました、中央図書館の利用者用と業務用エレベーター2基が、本年7月で設置30年が経過します。今後部品の調達も困難となること、また、不具合も生じていることから、令和6、7年度の2か年でエレベーター設備改修工事を行うものです。令和6年度に、工事請負費として、4,096万円計上しております。財源としまして、地方債を活用することとしております。
- ・次に、中央図書館照明設備改修事業についてですが、中央図書館1階のエントランスホール吹き抜け天井の白熱球の照明設備改修工事を行うものです。現在、6か所のうち2か所が消灯しているのですが、

中央図書館長

<p>科学センター次長</p>	<p>白熱球が製造中止のため、交換ができない状況となっています。中央図書館は避難所に指定されていることから、夜間に開設した際など、安全に避難していただくため、長期間、10年と聞いておりますが、交換不要のLED照明に全面改修工事を行います。工事請負費として157万3,000円を予算計上しております。財源は、地方債を活用することとしております。以上です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学センター展示整備事業について説明します。 ・これは、移転後の科学センターにおいて、幅広い世代がいつでも科学を楽しみ、学ぶことができる体験型科学展示等、常設展示を制作・設置するものです。令和6年度から7年度までの2か年にわたり業務発注します。事業完了後の精算払となるため、令和6年度に契約をしますが、全額2年目の令和7年度に支払いすることになるため、6年度予算書では、債務負担行為として計上され、7年度に歳出予算として全額が計上されるものです。 ・添付したパース図について説明します。常設展示では、教科書や学校の実験だけでは実感しにくい理科単元を体感的に学べるものであり、理科や科学の入り口の要素となっているものを多くそろえているので、小・中学校が理科授業を受けるために来館したときの授業の1コマとして考えています。左上の「カガクカーテン」ですが、虹色の模様のもので、普段は気づかない、見えないような不思議な現象を可視化して日常に潜む科学現象に気付いてもらうことをねらいとしたもので、音、風などに反応して天井から吊るす2枚のLEDカーテンの様相が変わるものです。「カガクボックス」は、木製のボックスで生活に身近な事例と科学をつなげ、科学的なモノの見方を養ってもらうものです。ボックスを一つ紹介します。周辺マップと書いてある文字の右側の絵ですが、テーマを光の三原色として、例えば、赤いりんごをボックスに入れて緑色の光を当てると黒く見えるといった実験ができる装置など、合計17個制作することとしています。「岩国ラック」「岩国ビジョン」「とくだしビジョン」は、岩国及び周辺地域について科学的視点から学べる映像ソフトが見れるものです。ここで学んだことを館外に出て実際に体験するという学びを提供します。「カガクボックス」の奥にあるのが、「宇宙のカガク」で、太陽系や銀河のスケール感を全身で体感してもらうデジタル体験装置です。全身を使った操作により、宇宙空間の移動を体験し、与えられたミッションをこなしていくゲームとなっています。裏面左上の「地球のカガク」では、瀬戸内海や岩国周辺の大地がどのように形成されたのかについて知ってもらうため、壁面映像と壁面に埋め込まれたケース内の岩石や化石と連動させ、解説をするものです。その右下の「生きものをみつける」「生きものになってみる」「生きものを拡大してみる」等は生物のゾーンとなります。
-----------------	---

<p>市長</p>	<p>また、屋外展示として、生きもののジャンプ力を実寸で表現して、実際にジャンプしてもらって体験ができるシートや、動物の足跡をたどるシートを貼ることとしています。以上で科学センターの説明を終わります。</p>
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各課の説明に、御意見・御質問がございましたらお願いします。
<p>教育政策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空調関係でお尋ねします。川下、愛宕、麻里布も含めて、古い校舎の空調機器の耐久年数はどれくらいですか。
<p>施設班長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一種防音校となりますので全館空調になっております。その関係で部屋ごとの切り替えができないなどがあります。
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・耐久年数は、14年が目安になっております。
<p>施設班長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・14年以上の古い機械を使って、現役時代によく壊れていた経験があります。数も多いと思いますが、古い機械を使っていて気になる学校はありますか。改修工事は進めていますか。
<p>村尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度から、全館空調の校舎の機器をメンテナンスしていきます。財源や関係部署との兼ね合いもあり、全面改修ではなく、機器の延命措置や改修にて学校に支障のないように維持管理をしていくような計画をしています。
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では主に機械の修繕等を教頭が対応されています。教頭の負担が増えないようにメンテナンスを含めてよろしくお願いします。
<p>英語教育推進室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流支援員常駐配置事業に関しまして、中学校においては支援員が常駐しており、学校訪問などに行くと、支援員の方がクラスの子供はもちろん、地域の方へ俳句の講座を設けたり、文化の交流を含めて活動をしておられます。小学校は、英語教育推進事業がこれに当たりますが、2020年度から英語が小学校5、6年生の教科に組み込まれ、英語教育が進んでおります。ICTを活用していくわけですが、異文化の理解や発音などは、ネイティブの方の影響力が大きいと思います。30校に10人配置されたことはとても喜ばしく思います。1年生からは外国語活動として、英語に触れることの役目を果たしていると思います。現況では、3校に1人くらいでしょうか。配置計画はどうなっていますか。
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの派遣については、本年度で一旦契約が終了しますので、来年度に向けて配置準備を進めているところです。基本的には本年度同様の募集をして配置計画を作る予定です。各学校のクラス数等を加味しながら、できるだけ均等に配置する予定です。
<p>英語教育推進室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの数で相対的に配置するということですね。
<p>廣田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス数を基に、こちらで案を作成し、各学校に支障がないか確認した後に配置をしていく計画としています。
<p>英語教育推進室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によって、ALTの訪問回数が変わるということですね。 ・大規模校では単独となることが多く、小規模校では掛け持ちになると思います。

廣田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・財源や人材確保などで、大変な御苦勞をされているかと思いますが、現場は切望されていますので、有効活用できるようよろしくお願いします。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・英語交流のまち I w a k u n i 推進事業について、市単位のイベント行事はあると思いますが、学校単位でできないだろうかと考えます。各学校にペリースクールの子に来てもらって交流授業をしたり、P L A T A B C に遠足で行って、そこで基地関係者と交流するなど、こちらで企画しようと思うと難しいので、恒例行事のようにできると、英語交流のまちとしての岩国の特性が子供たちに浸透するのではないかと思いました。現在も施設の個人利用はあると思いますが、学校や学年、クラス単位ではないと思いますので、子供たちの良い経験のために、検討いただけるかどうかお聞かせください。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生は、日米交流コンサートなどしていると思いますが、範囲を広げて授業のカリキュラムに加えてほしいということですか。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリースクールにも日本の学校との交流授業を1年間の教育スケジュールに組み込んでもらえたらと思います。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・授業日数の問題などを検討することになりますね。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によって温度差もありますね。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・川下や通津など、やっているところもありますが、調整が難しいです。
村尾委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の中の、ゆとりの時間辺りを活用するとか、まず、先生方が特徴のある教育をするという認識を持つことが大切だと思います。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリースクール自体が日米交流にあまり積極的ではないので、こちらから声掛けをしてもなかなかうまくいきません。ペリースクールの放課後教室の校長は協力的ですが、火曜日の午後しかフリーの時間が取れないのと、ペリースクールの放課後教室に通う子供に限定されます。ペリースクール自体が交流のカリキュラムを組んでもらえれば、岩国の特性が生かせるかなと思います。
村尾委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもはどこを窓口に申請していますか。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基地内の日米交流から紹介された方とやり取りをしており、ペリースクールの放課後教室に携わっておられる方だと思います。
英語教育推進室長	<ul style="list-style-type: none"> ・その方から何度か連絡がありました。おっしゃるとおり、火曜日の午後を希望されていますが、火曜日はP L A T A B C の休館日になりますので、なかなか都合がつかないのですが、今年度に1回、P L A T A B C で日本文化を学ぶ交流授業を実施した実績はあります。学校間での交流につきましては、今週金曜日に麻里布小学校でペリースクールの子供たちと交流すると聞いております。コンタクトから交流まで、事業を進めるのが非常に難しかったと聞いておりますので、英語教育推進室としてもつなぐ支援を行っております。今後も希

柿木委員	<p>望される学校があれば、市としても積極的に支援していきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語を学びましょう、勉強しましょうと言っても、前のめりになる人はなかなかいないのではないかと思います。もう少し理のある形にして、例えば、英語を使って自分たちの地域や地元企業の魅力を説明するなど、交流の前段階で準備して学んでもらって、より魅力を知ってもらい、その後につなげる形が良いのではないかと思います。国際交流カフェやイングリッシュキャンプなど、英語を学びたい人だけではなく、みんなが積極的に英語を使って外国の方々と交流する機会を作ってはどうかと考えますが、いかがでしょうか。
英語教育推進室長	<ul style="list-style-type: none"> 岩国の魅力を学んで積極的に発信していこうという取組で、昨年夏に「I w a k u n i G l o c a l C o u r s e」を実施しました。これは、市内在住の英検3級レベルの児童生徒を対象にした講座で、ここでは、岩国の魅力を洗い出し、基地に住むボランティアから見て岩国の魅力をどう感じているのか聞いてみて、その結果を英語で発表するというものです。アンケート結果から、岩国の魅力を再認識できたので、これからも基地の皆さんに向けて英語で発信していきたいなどの感想をいただいています。また、3月24日にPLAT ABCの2周年を記念して大きなイベントを企画しています。錦帯橋課の御協力の下、錦帯橋の5分の1の模型を組み立てようと計画しています。東中学校の生徒の皆さんに御協力いただき、錦帯橋の魅力や錦帯橋がどのように架けられたかを英語で発表してもらおう計画をしています。岩国の魅力を英語で発信していく機会にしたいと考えています。
村尾委員	<ul style="list-style-type: none"> 部活動改革推進事業は今年初めて予算化されましたね。部活の地域移行が目に見える形で進んでいないように感じます。令和8年度には学校の部活動を廃止すると明言している市もあります。岩国市は山間地域から都市部まで広く、環境が違いますので、部活が廃止されると生徒の7～8割程度が遊び部になってしまいます。スポーツに親しむ子供たちが減っていきますので、食い止めるために、競技団体との話し合いを密にして見える形で地域移行をお願いしたいのですが、ここにあるコーディネーターは各学校に配置されるのですか。
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> 市に1人配置する予定です。関係団体とのつなぎであったり、推進協議会の調整や団体への働き掛けなどに専任していただきます。
村尾委員	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の指導に熱心な先生方もいるので、競技団体とのすり合わせなど、かなりしっかりやらなければ、地域移行に向けての充実した体制作りができないと思いますがいかがですか。
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> 教員の中には、引き続き部活動の指導を担いたいと言う教員もいます。その一方で、地域に移行していく全国的な流れがあり、山口県では、兼職兼業の扱いについて整理をしているところです。教員が兼職兼業

	<p>の申請を提出して、業務に差し支えなければ部活動に従事するという仕組みが整いつつあります。コーディネーターを置くことで広くアナウンスができて、教員の不安も解消できれば良いと考えています。岩国市は広域な環境にあるので、一律に期限を決めて実施すると、機会を一気に失ってしまう子供たちが生まれますので、様子を見ながら部活動の縮小と受入れ団体の気運が上がるように、協議会だけでは難しいところをコーディネーターに橋渡しをお願いしたいと思います。</p>
村尾委員	<ul style="list-style-type: none"> ・課題はたくさんあると思います。現在部活動に入っている中学1、2年生と競技団体との橋渡しを、学校の先生が積極的に行い、受皿を作ってそこで協議すると。子供たちが安心できるように、知恵を出し合いっていただけたらと思います。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターにもしっかり汗をかいてもらいましょう。
廣田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校日本語指導支援員配置事業と帰国・外国人児童生徒教育推進支援事業について、言語の種類も多様化していると思いますが、支援を必要とする言語の種類はどれくらいあり、何人おられますか
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・英語以外で、国籍で言いますと、ネパール、中国、ベトナム、ブラジル、フィリピン、ルーマニア、韓国などで90人ほどになります。
廣田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模校では、大体各クラスに支援員が1人いて、テストにおいては、答えが分かっても表現方法が分からなかったり、設問内容が分からず、支援員の方が努力しておられます。英語はともかく、タガログ語などは難しく、苦勞されていると思いますが、日本語支援員に対する指導法やサポートの仕方についての研修会などはどうなっていますか。
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な形ではありませんが、研修会はしております。英語以外の言語については、タブレット端末の利用や、ボディーランゲージや図を描いたりされています。子供の横について補助していただいたり、日本語の習得を並行して行ってもらっていますが、なかなか十分ではありません。
廣田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで一つ一つやっていると間に合わないので、ボディーランゲージや絵を描くなどしておられます。教員ではない方もおられますので、手厚いアドバイスと研修の機会をお願いしたいと思います。
柿木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校ICT環境整備事業や部活動改革推進事業も教員の働き方改革に言えるものがあると思います。ICTをもっと活用して、授業準備の負担や採点の負担を減らすなど、人がやらないといけないところとやらなくても問題ないところを精査していく予定があるのかどうか。部活動においても、たとえば、技術指導は今、動画などでいくらでも見ることができるので、教員の負担を減らし、教員がやるべき役割とテクノロジーを効率化できたらと思います。どのように改革しようとしているのか教えてください。

学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校 I C T 環境整備事業では、おおむね 30 人以上の多人数学級を有する学校に大型提示装置を整備していきます。中・大規模校では教室内に机が縦横 5、6 列ありますので、教員が提示するにしても、ある程度の大きさが必要です。資料にありますように、子供たちの意見を集約して分割画面で一括して提示したりもできます。現状は 50 インチの吊り型ですが、65 型の可動式のものを使用することで、教室の後ろの子供たちもよく見えると思います。教員の業務負担軽減のためにも、授業支援アプリも入れ替えることになりました。授業支援アプリについては、現在使用しているものも一定の成果を上げていますが、業者からの申し出により、次年度 1 年間、試験的に無料で利用できるようになりましたので、教材の提示や、意見の共有ができると思います。中学校では無料期間内に自動採点システムを導入して、必要性の有無について検討していこうと考えています。自動採点システムは県立学校では全県で入れているシステムで、答案用紙を一律に並べて、記号については自動採点、記述に関しては並べて一律採点ができるシステムで、採点のばらつきをなくす面も可能になるので、業務改善が一体的に図れると良いかなと思います。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・業務支援員を現場に取り入れて、I C T を上手く活用し、文化スポーツも含め、技術をしっかり取り入れてやっていただけると良いと思います。
学校教育課長	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の支援員も 50 人弱おられますし、業務アシスタント補助事業もあります。部活動指導員の担い手の問題もありますので、先ほどのコーディネーターとセットで、部活動を支援して下さる人と学校とのマッチングが進むようにやっております。
柿木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自立学習支援プログラム（e ラーニング）導入事業は、学習支援であると思いますが、モチベーション管理や家庭のケアが大事な生徒に対して基本的に内部の人員で対応しているのか、外部委託にてフォローしてもらっているのか教えてください。
青少年課長	<ul style="list-style-type: none"> ・委託はしていませんが、月に 1 回、カウンセラーによる本人又は保護者のカウンセリングを行っております。
柿木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それは予算に組み込まれていますか。
青少年課長	<ul style="list-style-type: none"> ・これは、あくまでも e ラーニングというタブレットを使用した学習支援の予算となります。
教育次長	<ul style="list-style-type: none"> ・同じく予算には含まれておりませんが、カウンセリングと並行して、心の支援員が各家庭に入ってケアをしています。
廣田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「とどける」家庭教育支援事業について、立ち上げ当初から見ると、かなり御尽力されて、現在 57 人で、30 校中 22 校に配置ということで、平均して 1 人の稼働時間はどれくらいですか。
生涯学習課長	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年度の実績で申しますと、多い方で年 20～30 回、少ない方で

廣田委員	<p>年1～2回。55家庭、82人の児童を対象に実施しています。相談会は93回実施し、1年で延べ440の方が参加されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方改革とも結び付くのですが、現役時代、家庭環境にも全て関わっていましたが、この事業ができて教員の負担は随分軽減され、大変重要な事業だと思っております。稼働率に個人差が生まれますと、稼働の少ない方が別の仕事を入れたりして、フェードアウトすることもありますので、家庭と学校と子供をつなぐという認識をしていただいて、頑張ってくださいと思います。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・これは県のモデル事業で始まりました。順調に進み、県下全域にも広がっていて良いことですね。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・これが不登校支援にもつながっています。家庭訪問をして指導したり、家庭教育サロンなどで保護者をつないでいけていますね。
廣田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のケアができていますね。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・400人程度の参加者があるということで、非常に良いですね。
廣田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい実績を上げておられます。
柿木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・科学センター展示整備事業について、私も非常に興味が湧いておりますが、英語の事業と同じで、やはり市民が参加するまでのハードルが1番高いと思います。学校単位で参加できるのでしょうか。
科学センター次長	<ul style="list-style-type: none"> ・小学4～6年生の間に1回、中学1～2年生の間に1回、理科の授業で必ず科学センターに来館するようになっております。学校でやりにくい実験や専門性の高い備品を使った授業を考えています。展示についても1時間の授業を使って科学展示に触れていただくように考えています。
村尾委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校3年生の社会見学は市内の公共施設を巡るので、そこで活用してもらうのも良いと思います。また、3、4年生で使う「わたしたちの岩国」に科学センターについて記載したり、社会見学とセットでやれば効果的だと思います。
科学センター次長	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年9月から12月に、市内の学校を全部回ってアンケートをとったところ、12校から社会見学で利用したいと回答がありました。麻里布小学校と川下小学校の2年生は、現在の科学センターに来ていますので、その様子を動画に収めたりして、科学センターに興味を持ってもらえるようなコンテンツを集めています。今後も、学校訪問の際に動画を見てもらいながらPRしていきたいと思っております。お弁当を食べる場所などについては検討していきます。
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・「いこいと学びの交流テラス」は、ホールや眺望の良い広場もあるので昼食場所は問題ないと思っております。 ・学校トイレの改修は総額6.9億円になっていますが、予算査定時に追加したものが反映されているのですか。
教育政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。反映しています。

市長	・地元の企業にお願いしたいので、経済効果も考えて、もう少し頑張つて、スピードを上げていけばと思いますが、どうですか。
教育政策課長	・社会的背景や働き方改革——休日の取り方など厳しくなっており、急ぎ夏休み期間中に工事を終えるなどの対応が難しいなどありますので、それを踏まえて考えていきたいと思います。
市長	・なるべく早めに頑張ってください。確認ですが、休校はカウントされていませんよね。
教育政策課長	・はい。
市長	・学校の統廃合も順調に進んでいると思いますが、美和東小学校が統合されたら、トイレの割合はどうなりますか。
教育政策課長	・分母が減るので、少し影響が出ることになります。実際に学校として活動しているものについて、算出しています。
市長	・灘小学校は屋内運動場の工事に入っていますが、グラウンドが狭くなったのではないですか。
教育長	・灘小学校は割と広いと思います。
学校教育課長	・大きな行事は難しいかもしれませんが、分かれて活動はできると思います。
教育政策課長	・ガードフェンスを設置し、サブグラウンドもありますので余裕はあります。
廣田委員	・灘小学校の児童数は何人ですか。
教育次長	・360人くらいです。他校と比べて広い方だと思います。
村尾委員	・灘小学校は借上げ土地ですよ。
教育次長	・灘小学校だけでなく、周北小学校などいろいろあります。
市長	・安全に気を付けて工事の遂行をお願いします。 ・選挙活動で市内を回っていましたが、美和の北部給食センターの工事場所で、重機の音が大きく気になりました。地域の方は学校のためなのでと苦情は言われなかったですが、授業を受ける児童に影響がないか心配されていました。何か防音対策はしていますか。
教育次長	・騒音の対策はしていますが、限界はあるかと思っています。
市長	・見たところ分からなかったし、子供たちの授業にかなり影響をしているのではと感じました。
学校教育課長	・現場からそう言った話は上がっておりません。
教育長	・校長や教頭と面談をしましたが、その話は出ませんでした。
学校教育課長	・ランチルームは北側で、校舎は南側にあり、離れた場所にはなりますが、現場の状況を再度確認します。
渡邊委員	・コミュニティ・スクールについてお願いがあります。人事異動で校長や担当教員が変わり、せつかくの1年の成果が失われることのないように、引継ぎをしっかりといただき、地域に溶け込み、柔軟な対応をお願いしたいです。

<p>市長 学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎは大事なので、しっかりやってもらいたいと思います。 ・通常の学校運営の引継ぎ資料とコミスクプレゼンというものを各学校で作っていて、校長同士、担当同士で引き継ぐようになっています。地域とのつながりは学校運営の上で一番大事なところでもありますので、しっかりやっていきたいと思います。
<p>市長 学校教育課主幹</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校学校給食運営事業は6億円とありますが、食材だけではなく運搬費用も含まれていますか。 ・賄い材料費だけになります。教職員や高森みどり中学校、玖珂幼稚園の給食費も含まれています。基金の対象は4億2,000万円くらいです。
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間となりましたので、この辺りで締め切らせていただきます。改めて、本日は大変貴重な御意見を賜りありがとうございました。これらの施策を各課でしっかり取り組んでまいりたいと思っています。今後とも、相互に連携して、教育行政の更なる充実・発展に向け、事業を推進していきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。 ・それでは、これもちまして、令和5年度第2回岩国市総合教育会議を閉会します。